

# 資料編

# 第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 堀口 利恵

## 1 単元名 デジタルかみしばい「何を話しているのかな」

(主な学習材:「えを見ておはなししよう」教育出版)

## 2 単元の目標

・身近なことを表す語彙の量を増やし、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。 [知識及び技能] (1)オ

・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄をえらぶことができる。

[思考力・判断力・表現力等] Aア

・進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

## 3 本単元における言語活動

デジタル紙芝居を作ろう。

## 4 単元について

### (1)単元観

本単元は、言葉の特徴や使い方に関する事項の(1)「オ 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。」と話題の設定、情報の収集、内容の検討(話すこと)の「ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。」を指導の重点項目として設定された単元である。

うさぎの家族が食事をしている絵を見て場面の様子を理解し、言葉を考えて話す教材であるが、選んだ登場人物の立場や気持ちを踏まえ、場面設定に合わせた言葉を考えることが大切になってくる。語彙を増やして、豊かに登場人物の気持ちを表現するには、うさぎの家族の楽しそうな食卓の絵から想像を広げ、絵の情報からわかることを話し合いによって共有することが必要になってくると考えられる。また、対話の形をとることによって、聞いたことをもとに戻す言葉を考えることから、伝え合うために必要な言葉を選び、表現する力も身に付くだろう。話す・聞くの両方を大切に展開することによって、児童の言語活動が豊かになっていく単元であると考えられる。

(2)児童の実態 (調査人数 7名)

【事前調査】※1・2は意識調査。3・4・5は、実態調査。

内容	A 女子	B 男子	C 女子	D 男子	E 男子	F 男子	G 女子
1 友達の前で発表することはすきか。	○	△	○	○	○	○	○
2 友達の話聞いてわからないことは質問しているか。	△	○	○	△	○	△	○
3 情報を正しく捉え活用している。	(0/5)	(0/5)	(0/5)	(1/5)	(2/5)	(2/5)	(0/5)
問：テーブルの上の食べ物を見てどんなお話をしているか考える。 結果：情報を取り上げ話題にできた児童は、D・E・F児のみ。							
4 想像したことを言葉で表現している。	(3/5)	(0/5)	(2/5)	(2/5)	(2/5)	(1/5)	(4/5)
問：テーブルの上の食べ物を見てどんなお話をしているか考える。 結果：視覚で感じたことを伝えている児童は、A・D・F・G児。 C児は匂い、E児は味について想像したことを表現できた。							
5 関係を理解して会話に生かしている。	(1/5)	(0/5)	(1/5)	(1/5)	(2/5)	(1/5)	(1/5)
問：テーブルの上の食べ物を見てどんなお話をしているか考える。 結果：呼びかけが多く、会話になっているものは少ない。							

1… ○：好き △：あまり好きではない / 2… ○：している △：していない  
 <3～5の ( / ) について>

3…人物5人のうち、何人が食べ物について取り上げていたか。

4…人物5人のうち、何人が想像したことを言葉で表現していたか。

5…人物5人のうち、何人が人物の関係を意識して会話をしていたか。

【考察】

実態調査から、本学級の児童は「話すこと」について、好意的に捉えている。普段の学習の中でも、国語に限らず、自分の知っていることや経験したことについては、積極的によく話す。しかし、聞くことについては、感想や質問を求められても、自発的に話すことは少ない。話すことが中心で、1つのものごとについて双方のやり取りがあまりないのが実態である。また、実態調査からは、話すことに必要な情報を集めたり、整理したりすることを苦手としている様子がうかがわれる。目の前にある情報を正しく捉え、それを整理して会話に活用する力は

十分と言えない。更に、知り得た情報をもとに、他者と会話を通して関わるることができる児童も多いとはいえない。こうした実態から、話すのに必要な情報を正しく読み取ったり、活用したりする力を児童に身に付けさせ、会話を通して人と豊かに関われる児童を育てていきたいと考える。

### (3)指導観

学習材「えを見ておはなししよう」は、絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする学習教材である。始めに全体で話し合っ、それぞれのうさぎに名前をつけ、次に好きなうさぎになって自己紹介をし合う。更にそれぞれのうさぎの言葉を考えて話す構成になっているが、児童の実態から考えると、自分の立場から話すことはできても、相手に呼びかけたり、友達の呼びかけを受けて答えたりすることは難しいと考えられる。そこで、予め得た情報をロイロノートの付箋機能でメモに整理し(手立て①)、更に録音機能で聞いたことを確かめながら(手立て②)、双方の会話によるやりとりを豊かにできたらと考える。また、実態調査から、情報を十分に読み取ることが難しい児童がいることが考えられる。そこで話題にしたいことを選んで、メモ作りをする際には、視覚から情報を十分に得て整理できるよう、テーブル上の食べ物をカラーコピーで実物大に用意し、全体でそれを見ながらわかることを話し合わせたい。(手立て③)そして、役割や立場をはっきりさせて話すことができるよう、お面を活用していきたい。

この学習を通して、1つのものごとでも、いろいろな見方や考え方があることを、体験を通して理解できるようにし、これからも様々な人の話に耳を傾け、自分の考えに生かせるようにしていきたいと考える。

## 5 単元の評価規準

知識・技能[知・技]	思考・判断・表現 [思・判・表]	主体的に学習に取り組む 態度[主]
・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ)	・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。  (Aア)	・進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。

6 指導計画（5時間）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1	○学習の見通しをもつ。 ・デジタルかみしばいをつくることを知り，学習計画を立てる。 ・全体で話し合っ、それぞれのうさぎに名前をつける。	
	2	○場面の設定や状況をつかむ。 ・好きなうさぎになって自己紹介をし合う。 ・話題にしたいことを選んでメモに書く。 ・対話をしてみたい相手への呼びかけの言葉を，メモに書く。 (ロイロノート付箋機能)	[思考・判断・表現①]メモ ・食卓の絵をもとに，様々な言葉を考え，メモ作りをしているか確認する。
第二次 (本時)	3	○それぞれのうさぎの言葉を考えて話す。 ・二人又は三人組を作り，カードをもとに対話する。 ・全体で発表を聞き合い，楽しいと思ったところや，よいと思ったところを伝え合う。	[知識・技能①]対話 ・自分や相手の立場を踏まえて，話をする事ができているか確認する。
	4	○デジタルかみしばいのリハーサルを行う。 ・内容や気持ちが伝わるように話せているか見直す。	[知識・技能②]発表 ・それぞれのうさぎの言葉を考えて，内容に合った対話を発表しているか確認する。
第三次	5	○学習を振り返り，感想を伝え合う。 ・学習全体を振り返り，がんばったところや，よかった点を発表する。	[主体的に学習に取り組む態度]感想 ・進んで言葉を考えられたか，友達と対話できたかを，感想から確認する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・自分や相手の立場を踏まえて、メモをもとに話をする事ができている。

[知識・技能①]

(2) 仮説との関わり

○ロイロノートの付箋機能を使って伝えたい内容や呼びかけを整理したメモを活用する。

【手立て①】

- ・メモをもとに伝えることによって、登場人物の思いを相手に確実に伝えることができる  
と考える。
- ・予めどんな呼びかけをするか用意しておくことで、相手への関心が高まり、理解が深まると  
考える。

○聞いたことに対して自分の考えが整理できるように、ロイロノートの録音機能を活用する。

【手立て②】

- ・録音機能を活用することにより、振り返りや気づきを確認できると考える。

(3) 本時の展開 3 / 5

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習のめあてを知る。	・メモを使って自分の思いを伝えたり、相手の伝えたいことを知ったりすることを伝える。	パソコン 大型 テレビ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     メモをもとに、家族と楽しくおはなしをしよう。                 </div>			
5	2 メモの活用の仕方を確認する。 ・一番伝えたいことを優先して話すようにする。 ・相手の話を聞いた後、返答をするようにする。	・画面にメモが用意されているか机間指導で確認する。 ・板書の掲示物で、手順を確認する。	掲示物
10	3 二人又は三人組で対話をする。 ・メモをもとに、対話をする。 ・対話の後に、どんなやりとりがあったのか、録音を聞いて、振り返る。	・挿し絵と同じ位置に座わせ、お面をつけてから開始させる。 ・メモをもとに、伝えたいことを落とさずに話せるようにさせる。 【手立て①】 ・録音したものを聞いて、デジタルかみしばいに使うメモを選ぶ。 【手立て②】	パソコン お面

5	4 二人組で話す内容を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組の話し合いをもとに、実際に話すメモだけを取り出して、順番に整理させる。</li> <li>○自分や相手の立場を踏まえて、メモをもとに話ができているか、授業後に録音機能で確認をする。 対話[知識・技能①]</li> </ul>	パソコン
10	5 全体の場で発表し、意見を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手には、自分だったらどんなことを話すか考えながら聞けるように助言する。</li> </ul>	
5	6 振り返りをする。 ・次回にがんばりたいことを、振り返りカードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見をもとに、修正するところがあれば、お話の内容を書き直させる。</li> </ul>	ワークシート
5	7 次回の学習について伝える。 ・次回は録画し、みんなで視聴することを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は、始めに二人組で練習してから、全体で通すことを伝える。</li> </ul>	

(4) 板書計画

<p>へすすめかた</p>	<p>・ ・</p>	<p>へはなすとき</p>	<p>・ ・ ・</p>	<p>えを見てはなそう</p>
<p>が メモをもとに、かぞくとたのしく おはなしをしよう。</p>				

1 単元名 相手に話の中心が伝わるよう、構成を考えて話そう

(主な学習材：「写真をもとに話そう」教育出版)

2 単元の目標

- ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。 [知識及び技能] (1) イ
- ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] Aイ
- ・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] Aウ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

写真を見て、どのようなことが読み取れるか、想像できるかをお互いに発表しよう。

4 単元について

(1) 単元観

中学年の「話すこと・聞くこと」では、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう、構成を考えることを通じて、自分の考えを形成することが求められている。そのために、具体的な相手や目的を一層強く意識して、筋道立てた構成にすることが重要である。また、話の中心を聞き手に分かりやすく伝えたり、場面を意識して話したりするために、表現を工夫することが重要である。

本単元は、写真から読み取った内容をメモに整理しながら構成を考えると、話し方を工夫しながら発表することの、大きく二つの言語活動からなっている。いずれも話の中心を明確にすることが重点である。3年「よく見て、話し合おう」では、写真をよく見て、五感で感じられそうなことを想像し、言語化する学習を経験している。「写真をもとに話そう」で提示されている写真は、遠近や動静、アングルなどが異なっており、撮り方によって印象が変わる。また、イメージを広げることによって、時間の経過や周囲の情景を想像することができ、児童に新たな視点を与えることができる。加えて、同じ写真であっても、どこに注目するかで感じ方が多様であるところに面白さがある。これらの気付きや想像といった情報を充実させることにより、話の構成を考える際の丁寧な理由付けを促すことができる。

どんな写真を選択するか、という点においても児童の個性が光る。自分とは異なる捉え方を知り、その価値観に対する驚きや感動を交流させることに価値がある。そのための発表であることを踏まえ、「相手本位」や「相手意識」を常に考えさせながら活動する。一方的に話したり聞いたりするのではなく、双方向の活動になるよう、めあてを明確に提示したい。今後、他教科においても、観察や記録、読み取りなどで写真を用いる機会が増えていく。その際は、本単元で学んだ「見ること」と「伝えること」を生かせるようにしたい。

(2) 児童の実態 (調査人数 4名)

【意識調査】

1. 友達の前で発表や意見を言うことは得意ですか。

得意	どちらかといえば得意	あまり得意ではない	苦手
0%	25%	75%	0%
・学級の人数が少ないから。		・みんなの前だと緊張するから。 ・間違えると恥ずかしいから。	

2. 声の大きさや早さに気を付けて発表することができますか。

できる	どちらかといえばできる	あまりできない	できない
0%	75%	25%	0%

3. 発表や意見を言う時は、言いたいことを整理してから話すことができますか。

できる	どちらかといえばできる	あまりできない	できない
0%	50%	50%	0%
・始め、中、終わりを整理できるから。 ・話の整理が得意ではないから。		・色んなことが浮かんで整理できないから。 ・スラスラ話すのが苦手だから。	

4. 友達の発表や意見を最後まで聞くことができますか。

できる	どちらかといえばできる	あまりできない	できない
75%	25%	0%	0%

5. 自分の意見と比べながら、友達の意見を聞くことができますか。

できる	どちらかといえばできる	あまりできない	できない
25%	50%	25%	0%
・友達の意見を聞くと、新しい発見があるから。 ・友達の意見も大事にしたいから。		・人と自分を比べるのが苦手だから。	

6. 友達の発表や意見を聞いて、分からないことを質問することができますか。

できる	どちらかといえばできる	あまりできない	できない
0%	75%	25%	0%
・分からないことは、すぐに質問したいから。 ・興味があることは、すぐに聞きたいから。		・手を挙げる時、少し緊張するから。	

【実態調査】

○「メモを作って一分間スピーチをしよう」出典：ちばっ子チャレンジ100

・聞き手に伝える内容を考えることができるか。

問：メモの中に書き加えるとよいものはどれですか。(選択式)

答：どんな時、楽しいか・・・ふらふらしないでカーブを曲がれた時

正答 3人 誤答 1人

- ・話の中心が明確になるよう、構成を考えることができるか。

問：スピーチの組み立てにおいて、順番を変えた方がよいところはどこですか。(選択式)

好きな理由→いつから始めたか→おすすめの言葉→どこでやっているか→今取り組んでいること

答：好きな理由→いつから始めたか→どこでやっているか→今取り組んでいること→おすすめの言葉

正答 0人 誤答 4人

- ・相手に伝わるような話し方を理解しているか。

問：スピーチの時に気を付けることをまとめましょう。(選択式)

答：スピーチをする時は、(大きな) 声で (ゆっくり) 話すようにしましょう。

また、(メモ) はできるだけ見ないで、(聞き手) を見て、伝わるように話すとういでしょう。

正答 4人 誤答 0人

意識調査から、本学級の児童は「聞くこと」を好意的に捉えていることが分かる。好意的な理由として「友達の意見を聞くと、新しい発見があるから」「友達の意見も大事にしたいから」「分からないことは、すぐに質問したいから」と挙げていることから、「情報をインプット」することに意欲を発揮すると考えられる。反面、「話すこと」には若干の苦手意識をもっていることが分かる。「話の整理が得意ではないから」「色んなことが浮かんで整理できないから」という理由からは、特に情報を整理することが不得手であると考えられる。実態調査「話の中心が明確になるよう、構成を考えることができるか」には、如実にその様子が表れている。また、自分の話に自信をもてないことが、発表する時の「みんなの前だと緊張するから」「間違えると恥ずかしいから」に結び付いていると考えられる。思考力や表現力の向上は、自信につながっていくだろう。

「相手を見ながら、声の大きさや早さに注意して話す」という技能面においては、基本的なことを理解している。これまでの学習経験や生活経験が積み重なっていることの表れである。この素地に、話す時や聞く時の観点を加えることができれば、活動をより充実させることができるだろう。

総じて、単元の始めに見通しをもたせ、具体的な方向性を示すことができれば、意欲的に学習できる児童だといえる。

### (3) 指導観

学習材「写真をもとに話そう」は、一枚の写真から気付いたことや想像したこと、背景や時間の経過など多くの情報を集めることから始まる。そのため、情報を扱いきれない児童の実態を考慮して、情報を減らすために取捨選択させてしまうことは本末転倒である。情報を整理するための技能を身に付けさせることで、「話すこと」の苦手意識を払拭したい。

第一次では、写真を撮影した経験を想起させることから始める。理科で観察する時、社会科で記録する時、図画工作科で作品を残す時、友達を撮影する時など、目的によって撮影方法には工夫があったはずである。この工夫が、写真から情報を得るための視点となり、第二次以降を支える骨子となる。具体的には、遠近や動静、アングルなどである。しかしながら、想起するだけで、具体的な視点にたどり着くのは難しいといえる。そこで、児童の手元に教科書の写真を拡大したものを用意し、比較しながら共通点や相違点を見つけられるようにする。全体で視点を確認した後、児童が一番話したいと思う写真を選択させ、意欲付けを図る。

第二次では、「写真の読み取り→話の構成→写真の紹介」という過程を二度行うことで、学びのスパイラルによる思考力や表現力の向上に取り組む。写真の読み取りにおいては、Yチャートに「気付いたこと」「想像したこと」「友達の気付き」などの項目を設け、メモを書き溜めていく。(手立て①) たくさんメモが書けることをよし

とし、「情報のアウトプット」を促していく。メモが書き進まない児童には、机間指導の際に視点を与えるための声掛けを行う。話の構成においては、プロットダイアグラムを活用する。Yチャートで作成したメモを割り当ていき、話の中心を明確にししながら、伝えたいことを整理していく。その際、内容が一つの項目に偏らないよう注意させる。(手立て①) Yチャートとプロットダイアグラムは、ロイロノートで作成や操作を行うことで作業の効率化と意欲の継続を図る。写真の紹介においては、全体で発表する前に、話す様子を友達に撮影してもらい改善点を確認する。その際、「発表する時の観点」を提示し、改善点を見つけやすいようにする。「発表を聞く時の観点」も提示することで、双方向の活動となるようにしたい。

また、発表の前後では、話の中心が何だったかを確認する。相手に伝えたいことを、きちんと伝えられたか振り返れるようにしたい。二度目の発表は、児童が撮影した写真を使う。一度目の学習を生かし、用意する写真には物語性をもたせることで、「気付いたこと」「想像したこと」「話の構成」などを膨らませることができるようになりたい。そのために、校内に掲示されている写真を見て回り、どのような視点で撮影するとよいか共通認識を図る。児童がとっておきの一枚で活動することにより、他教科でも生かせる力の習得を目指す。(手立て③)

第三次では、相手に伝えることの大変さと楽しさを振り返る。意図することを伝えるためには、話の構成や話し方に工夫が必要であり、さらに「相手意識」をもたなくてはいけないことを経験した。大変な労力を要するが、きちんと伝わることに楽しさも感じるはずである。「話すこと」に対する気持ちの変化が、感想として書けるとよい。また、互いの発表を通じて、いろいろな見方や考え方があることを確認した。金子みすゞ「わたしと小鳥と鈴と」における、「みんなちがって、みんないい」に思いを馳せ、温かな気持ちで学習を終えられるようにしたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能 [知・技]	思考・判断・表現 [思・判・表]	主体的に学習に取り組む態度 [主]
①相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (1) イ	①相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A イ) ②話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A ウ)	①粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるよう構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。

6 指導計画（6時間）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1	○学習の見通しをもつ。 ・「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 ・写真の撮り方を比べて受け取る感じの違いを確認する。 ・教科書から話す写真を決める。	
第二次	2	○話の中心が明確になるよう、構成を考える。 ・メモの書き方を確認する。 ・写真から読み取ったことをメモに整理する。 ・メモをもとに話の構成を考える。	
	3	○発表を聞き合い、感想や意見を交流する。 ・発表する時の観点を確認する。 ・自分が話す様子を友達に撮影してもらい、改善点を確認する。 ・全体で発表を聞き合い、感想や意見を交流する。	[知識・技能①]発表 ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意しながら話しているか確認する。
	4 (本時)	○話の中心が明確になるよう、構成を考える。 ・児童が撮影した写真から読み取ったことをメモに整理する。 ・メモをもとに話の構成を考える。	[思考・判断・表現①]メモ ・話の中心が明確になるよう、メモをもとに話の構成を考えているか確認する。
	5	○発表を聞き合い、感想や意見を交流する。 ・発表する時の観点を確認する。 ・自分が話す様子を友達に撮影してもらい、改善点を確認する。 ・発表を聞く時の観点を確認する。 ・全体で発表を聞き合い、感想や意見を交流する。	[思考・判断・表現②]発表 ・話の中心を明確にし、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫しながら話しているか確認する。
第三次	6	○学習を振り返る。 ・人によって、いろいろな見方や考え方があることを確認する。 ・話す時や聞く時の観点について確認する。 ・単元を通じた感想を書く。	[主体的に学習に取り組む態度①]感想 ・話の中心が明確になるよう構成を考え、話し方を工夫しながら発表することの大切さに気付いているか確認する。

## 7 本時の指導

### (1) 評価規準

- ・話の中心が明確になるよう、メモをもとに話の構成を考えている。 [思考力、判断力、表現力等①]

### (2) 仮説との関わり

○Yチャートを使って、写真から読み取ったメモを整理する。【手立て①】

写真から読み取った情報を整理するため、Yチャートに「気付いたこと」「想像したこと」「友達の気付き」などの項目を割り当てながら分類することで、写真を多面的に捉えることができると考える。

○プロットダイアグラムを使って、話の中心と構成を組み立てる。【手立て①】

Yチャートで作ったメモの中から、話の中心になるものを決める。その後、理由付けとなるメモを選び、全体の構成を組み立てていくことで、伝えたいことを明確にできると考える。

### (3) 本時の展開 4 / 6 「写真をもとに話そう」

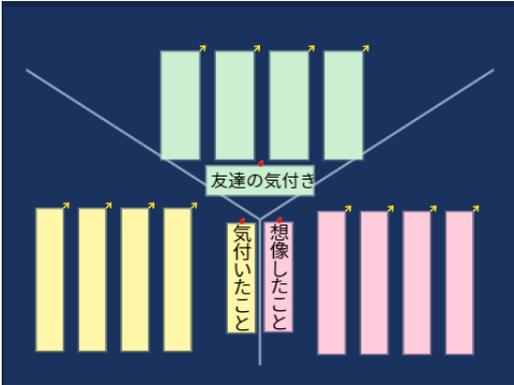
時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習とめあてを知る。	・単元計画をもとに、本時の流れを伝える。	掲示物 (単元計画)
	自分がとった写真について、話の中心と構成を考えよう。		
10	2 自分が撮った写真を紹介し合う。 ・各自が持ち寄った写真について、簡単に意見を出し合う。 ・互いの写真の共通点や相違点を考える。 ・遠近や動静、アングルなどの視点を確認する。 ・友達から出された意見は、ロイロノートのYチャートにメモを取る。	・児童が撮影した写真を、教師がスライドにまとめ、大型テレビに映し出す。  ・意見を出し合う過程で、視点がずれていかないように声掛けをする。	パソコン 大型テレビ
15	3 写真をもとにメモを整理する。 ・Yチャートを使い、写真から読み取ったことを整理する。 ・「気付いたこと」「想像したこと」「友達の気付き」の項目を確認する。 ・できるだけたくさんメモを書く。	・Yチャートを使って、写真から読み取ったメモを整理する。 【手立て①】  ・たくさんメモが書けるように、机間指導しながら、視点を与えるための声掛けを行う。	パソコン 大型テレビ
10	4 話の中心と構成を決める。		パソコン

5	<p>5 次回の学習について伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が話す様子を友達に撮影してもらい、改善点を確認すること。</li> <li>互いの発表を聞き合い、感想や意見を交流すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロットダイアグラムを使って、話の中心と構成を組み立てる。【手立て①】</li> <li>○メモ [思考・判断・表現①]</li> <li>話の中心が明確になるよう、メモをもとに話の構成を考えているか確認する。</li> <li>構成が決まった児童は、ロイロノートの録音機能を使い、声に出しながら考えさせる。</li> <li>次回の学習が第三次の学習につながることを意識させる。</li> </ul>	<p>大型テレビ</p> <p>掲示物 (単元計画)</p>
---	---	--	------------------------------------

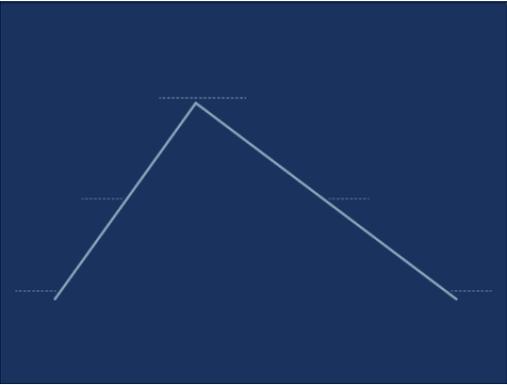
(4) 板書計画

<大型テレビ>

(Yチャート)



(プロットダイアグラム)



学

写真をもとに話そう

自分がとった写真について、話の中心と構成を考えよう。

## 第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 生澤 美樹

### 1 単元名 島の友達に伝えよう「船穂小学校のよさ」

(主な学習材:「ひみつを調べて発表しよう」教育出版)

### 2 単元の目標

- ・情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- ・話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えることができる。 [思考力，判断力，表現力等] A (1) イ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力，人間性等」

### 3 本単元における言語活動

島の学校に船穂小のよさを発表したり，意見交換したりしよう。

### 4 単元について

#### (1)単元観

本単元では，プレゼンテーションを活用して，効果的に資料を提示したり話の構成を考えたりして自分たちの考えを相手にわかりやすく伝えることを目指した教材である。そのため，相手意識や，伝えたいことを明確にする目的意識をもって活動することが大切になってくる。児童は，前単元「まんがの方法」でまんがの表現方法とその効果を読み取ったり，筆者の紹介の手順や特徴について考えたりして，わかりやすい説明の仕方について自分の表現にも生かせることを学んでいる。「ひみつを調べて発表しよう」では，自分たちで見つけたテーマを基に，発表する相手の関心を高め，内容をわかりやすく伝えるという視点を持ちながら活動させる。相手を意識した発表をするためには，表現方法，構成，話し方等を工夫することが必要となってくる。そのため実際にインタビューをしたり，アンケートの結果を集計したりするなど根拠となる必要な情報を集め，選択させることが重要である。さらに，自分たちの発表を振り返る場を設けることで，一方的に発表するのではなく，テーマについて考えが広がったり深まったりするようにして伝える内容を聞き手に明確に伝えたい。本単元を通して，今後，他教科においても，資料を効果的に活用しながら自分の考えを伝える表現力を身につけさせていきたい。

(2)児童の実態 (調査人数 8名)

【意識調査】

内容	A男	B男	C女	D男	E女	F男	G女	H女
1 友達と話し合いをしながら活動することは好きですか。								
	△	△	○	○	○	○	○	○
【理由】	(好き) ・皆で話し合うことでもっと仲良くなる ・友達の見聞を開ける ・友達と話す面白 ・自分の思いを伝えられる ・話すことが好き ・ディベートや話し合いが好き (好きではない) ・あまり意見を言えない ・話す時間が長いと感じる							
2 自分の考えを相手にわかってもらうために工夫しながら伝えていますか。								
	○	○	○	○	△	○	○	○
3 発表することは好きですか。								
	△	△	○	○	△	△	△	○
【理由】	(好き) ・みんなが自分の話を聞いてくれる ・自分ががんばったことを多くの人に知ってもらえる (好きではない) ・緊張する ・人前だと上手く話せなくなる							

○：好き (している)    △：あまり好きではない (していない)

【実態調査】

1 情報の提示について	問：発表するとき、三枚の図をそれぞれどの場面で示せばよいか。							
	2 / 3	1 / 3	3 / 3	1 / 3	0 / 3	0 / 3	2 / 3	3 / 3
2 表現の工夫について	問：聞き手を引きつけるため、どのような工夫をしているか。							
	×	○	○	×	×	○	×	○
3 聞き手について	問：「話し手が調べたことの中で最も伝えたかった内容を引き出そうとする質問」としてふさわしいものはどれか。							
	×	○	○	×	×	○	○	○

【考察】

意識調査から、本学級の児童は「話すこと」について概ね好意的に捉えている。普段の学習の中でも、国語に限らず、友達との話し合い活動では積極的によく話す姿が見られる。また、「自分の考えを相手にわかってもらうために工夫しながら伝えていますか。」では、ほとんどの児童が相手に伝わるように意識して活動していることがわかった。

しかし、発表することに対して半数以上の児童が苦手意識をもっており、理由は「緊張する」「人前だと上手く話ができない」であった。

事前テストでは、資料の活用について、話す内容と資料を関係付けたり表現の工夫として資料提示をしたりすることの必要性を意識していない実態がある。さらに、「聞くこと」について、話し手の目的や自分が聞こうとする話の内容を明確にして聞いていないことがわかる。

### (3)指導観

学習材「ひみつを調べて発表しよう」は、伝えたいことを明確にしたうえで、効果的に資料を提示しながら発表を行う。伝えたいことを明確にするためには、相手意識や目的意識をもつ必要があると考え、沖縄県立北大東島小中学校の5・6年生の友達に向けて船穂小のよさを伝えることを目指す(手立て①)。北大東島の友達とは4月からオンライン交流会を行っており、交流会では、北大東島の友達の紹介を聞いたり、船穂小について紹介したりしてきている。もっと交流を深めるために、船穂小学校や地域のよさを伝えるプレゼンテーションでの発表をして、自分たちについてもっと知ってもらうことを単元のゴールとした。第一次では、テーマを考え、プレゼンテーションの資料作りの計画を立てる。プレゼンテーションの資料作りは、総合的な学習と関連付けながら行う。国語科の学習では、主に話の構成や資料の活用について児童同士で話し合いを行い、考えを深めさせていく。第二次では、ロイロノートの付箋機能を活用して構成メモを整理し(手立て②)他の班の児童とプレゼンテーションの内容を共有する。話し合いの中で付箋を付け足したり、入れ替えたりすることで資料をどこで関連付けたらよいかを考え、共有することで、考えが広がったり深めたりすることができるであろう。第三次では、発表リハーサルを行い、映像を見て検討したり他の班の友達に発表を聞いてもらったりして、自分たちの発表を振り返る場を設ける。振り返ることで話し手の立場だけではなく、聞き手の立場でも、発表の内容について考える事ができるとであろう。発表に対して苦手意識をもっている児童が多いので、自信をもって発表できるよう、3人程度の班で活動したり、プレゼンテーションについて話し合ったりする時間を十分に確保していく。

この学習を通して、児童が人との関わりの中で、互いの考えや思いを伝え合う力を、高めていきたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使おうとしている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">((2)イ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(A(1)イ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を効果的に活用した構成を考え、進んで発表しようとしている。</li> </ul>

6 指導計画（6時間）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1	○学習の見通しをもつ。 ・島の友達に「船穂小のひみつ」をプレゼンテーションで伝えることを知り、学習計画を立てる。 ・全体で話し合っ、それぞれのテーマを考える。	
	2 3	○内容に沿った資料を集め、発表の構成を考える。	[思考・判断・表現①]メモ ・相手に自分の考えが伝わるように、話の構成や表現の工夫を考えているか確認する。
第二次	4 (本時)	○プレゼンテーションの内容を話し合う。 ・他の班の友達の発表内容を聞き、お互いにアドバイスし合う。	[知識・技能]対話 ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して助言し合っているか確認する。
	5	○発表の構成等を見直す。 ・前時に話し合ったことを活用して、発表の内容と方法を見直す。	[思考・判断・表現②]対話 ・アドバイスを活用しながら、話の構成や表現の工夫を考えているか確認する。
第三次	6	○自分たちの発表を振り返る。 ・学級リハーサルを行い、自分たちの発表を振り返る。 ・第3回の交流会に向けて意欲を高める。	[主体的に学習に取り組む態度]感想 ・資料を効果的に活用した構成を考え、進んで発表する姿を確認する。

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して助言し合っている。 [知識・技能]

(2) 仮説との関わり

○島の友達に「船穂小のよさ」について伝える目的をもたせる。 【手立て①】

相手意識をもつことで，聞き手を意識した発表を行うことができると考える。

○ロイロノートの付箋機能を使い，発表の構成メモとして活用する。 【手立て②】

構成メモをもとに話し合うことで，伝えたい内容や資料の提示場面を整理したり共有したりすることができると思う。

(3) 本時の展開 3 / 5

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	1 本時の学習のめあてを知る。	・プレゼンテーションの資料や発表の内容について他の班の友達と話し合うことを知らせる。	パソコン 大型 テレビ
船穂小のよさを伝えるために，わかりやすい伝え方をみんなで考えよう。			
5	2 話し合いの視点を確認する。  ① 話の柱 ・一番伝えたいことは何かを明確にする。 ② 資料の活用 ・話す内容に合わせた資料の活用 ③ 発表の構成 ・話の順序や話す内容に合わせた資料の示し方の工夫 ④ 話し方や言葉遣い ・正しい言葉	・「話し合いの視点」を黒板に掲示し，①～④の項目を児童に確認させる。	掲示物
30	3 他の班と話し合い，内容を検討する。	・3つの班で立場を変えて発表したり，発表を聞いたりして話し合わせる。	ロイロノート スライド ノート

### 【内容の発表】

(話し手)

- ① 構成メモを提示し、大まかな発表内容を説明する。
- ② 完成しているところまで資料を提示しながら話す。

(聞き手)

- ① 構成メモを見たり、考えを聞いたりにして発表の内容をつかむ。
- ② 話し手の発表を聞いて助言をしたり、よいところを見つけたりする。

### 【話し合い】

(話して・聞き手)

- ・相手に伝えたい内容が明確に伝わる発表になるように話し合う。

(聞き手)

- ・資料の提示の順番を変えたらもっとわかりやすく説明できると思う。
- ・プレゼンテーションのグラフがわかりやすいね。
- ・出だしの言葉が興味を引きつけるね。

(話し手)

- ・この資料にはどんなグラフを使ったらわかりやすくなるかな。
- ・もっと北大東島の友達に興味をもってくれる話し方はどんな感じかな。
- ・○○な感じに伝えたいけれど、この方法はどうか。

### ・【内容の発表】と【話し合い】

を1班ずつ時間は10分程度行う。

- ・ロイロノートの付箋機能を活用し、発表の構成について話し合わせる。

- ・話し手には、全体の構成や考えを聞き手に伝えてから、完成しているところまでを発表するよう助言する。

- ・聞き手には、話の内容が明確に伝わっているか考えながら聞くよう助言する。

- ・メモを取ってよいことを知らせる。

- ・話し合いの司会進行は教師が行う。

- ・話し手も聞き手も互いに質問し合う時間をつくる。

- ・話し手も聞き手も発表の内容が相手に伝わる構成になっているかを考える。 【手立て①】

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して助言し合っている。

対話[知識・技能]

